

科目コード	T110101		区分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	英語 I		担当者名	古賀 敢人			○		
			実務経験との関連	民間教育会社（教材開発会社・教育コンサルタント等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、他者との会話演習を実施することで、必要となる情報を英語で時間をかけることなく伝える練習を行う。また、まとまった英語を聞き取り、その内容について、自身の言葉で説明する練習を行う。

<授業の到達目標>

1. 基本的な文法を用いて、他者に英語で発話をすることができる。
2. 他者が話す英語の質問を聞き取り、回答することができる。
3. 他者が話すまとまった英語を聞き取り、その内容を把握することができる。

<授業の方法>

2人以上のペアまたはグループとなり、毎回指定された文法テーマに則り英語でのやりとりを実施する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業課題：65点（5点×13回） 中間考査 口頭試問：15点 期末考査 口頭試問：20点

<教科書>

使用しない（独自プリント配布）

<参考書>

なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	自己紹介の英語	相手に響く英語での自己紹介とその深堀りに必要な語句を習得する。
2	現在形・過去形：習慣に関する英語	現在形と過去形のほか、頻度副詞を用いて、グループで情報を集め、集めた内容について英語で共有する。
3	未来表現：未来の予定について述べる	be going to, will, be V-ingの表現を用いて、個人のスケジュールを説明するほか、他者に質問をしながら予定を埋める練習を行う。
4	助動詞：能力について述べる	can, be able toの表現を用いて、規則や問題に対して英語で提案をする練習を行う。
5	助動詞：義務・提案の表現	must, have to, shouldの表現を用いて、規則や問題に対して英語で提案をする練習を行う。
6	助動詞：可能性の表現	must, should, may, can, will, would, couldの表現を用いて可能性を説明する練習を行う。
7	中間考査 口頭試問	第1回～第6回の表現を用いて、ひとりずつ英語にて質疑応答に対応する。
8	現在完了形	経験、継続、完了について現在完了形の意味を理解したうえで、出来事の詳細を説明する練習を行う。
9	仮定法現在	将来起こり得ることについて、第6回で学んだ助動詞を用いて説明する練習を行う。
10	仮定法過去・仮定法過去完了	事実と反する内容について説明する練習を行う。
11	関係詞	関係代名詞と関係副詞を用いて、示された事象について詳細な説明をする練習を行う。
12	比較級	同格を含めた比較の表現を学び、様々な事象やデータについて比較する練習を行う。
13	接続詞	接続副詞など、文と文をつなぐ表現を正確に把握したうえで、実際の英会話において使う練習を行う。
14	前置詞	場所や時間を示す前置詞の正しい用法を通して、より細かい表現を身につけ実際の会話に活かすことができる。
15	期末考査 口頭試問	第8回～第14回の表現を用いて、インタビュアーと英語での質疑応答に対応する。また、指定されたテーマのほか、データについて読み取り、英語で説明する。

科目コード	T110102		区 分	専門基礎		実務経験のある教員等による授業科目				
授業科目名	英語Ⅱ		担当者名	古賀 敢人		○				
			実務経験との関連	民間教育会社（教材開発会社・教育コンサルタント等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	演習	卒業要件	必修	

<授業の概要>

本科目では、英語Iで学んだ英語文法を用いて発展的な会話練習を行う。実際の使用現場を意識しながら、他者との会話演習を実施することで、語学運用に必要な実践力を身につける。なお、各授業で文法事項の再確認をするため、英語Iを履修していない学生も履修をすることはできる。

<授業の到達目標>

1. 中級程度の文法を用いて、他者に英語で発話をすることができる。
2. 他者が話す英語の質問を聞き取り、即答することができる。
3. 他者が話すまとまった英語を聞き取り、その内容を他者に伝えることができる。

<授業の方法>

2人以上のペアまたはグループとなり、毎回指定された場面を意識して英語でのやりとりを実施する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業課題：65点（5点×13回） 中間考査 口頭試問：15点 期末考査 口頭試問：20点

<教科書>

使用しない（独自プリント配布）

<参考書>

なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	自己紹介に必要なこと	英語での自己紹介で求められる英語力とコミュニケーション力について考えながら実践する。
2	Integrated Speaking入門	示された英文を読み、その内容を他者に伝える練習を行う。パラフレーズの基本的な方法について学ぶ。
3	Integrated Speaking実践	示された英文を読み、自らの言葉でその内容を説明するほか、意見を述べる練習を行う。
4	Integrated Writing入門	示された英文を読み、その内容について文章にする練習を行う。パラフレーズをもってより自分の考えを反映した文章の作成に取り組む。
5	Integrated Writing実践	示された英文を読み、その内容について自分の意見で主張する練習を行う。
6	データ分析実践	示されたデータを見て、その内容について英語で説明する練習を行う。
7	中間考査 口頭試問	英文を読みその内容について自分の意見を述べる。英語力のほか、その内容の妥当性について判断する。
8	ノートテーキング入門	リスニングを聞きメモをとる練習を行う。そのうえで、会話の内容を自分の言葉で説明する練習を実施する。
9	ノートテーキング実践	実際の放送や会話を聞いて、その内容について自らの意見を述べる練習を行う。
10	速読入門	限られた時間で文章を読み、核となる内容を見つけ出す練習を行う。内容について自分の言葉で他者に伝える練習を行う。
11	速読実践	スキムリーディングを実践し、必要となる情報を瞬時に見つけ出す練習を行う。内容について自分の意見を述べる練習を行う。
12	情報補正入門	提示された内容に関して英語を聞き、内容についての正誤を把握し、間違っていれば瞬時に正しい内容に書き直す練習を実施する。
13	情報補正実践	英語で内容を把握しながら、必要となる情報を付け足す練習を行う。具体例や理由などの表現を瞬時に把握し書き出す練習を実施する。
14	実務入門	実際のビジネス環境を模索し、他者の英文や資料を確認しながら、自らの見解を英語で示す練習を行う。
15	期末考査 データ分析	架空の企業データを公表し、それに関する英文を聞いたうえで企業評価を英語で行う。

科目コード	T110205		区分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	TOEIC I		担当者名	古賀 敢人			○		
			実務経験との関連	民間教育会社（教材開発会社・教育コンサルタント等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

TOEICの各PARTについて詳細な解法手法を提示し、高得点の獲得を目指す。

<授業の到達目標>

TOEICの各PARTについて、一つずつ丁寧に解説し、TOEIC本試験で500点台に到達することを目標とする。また、英語の使用に慣れた学生においては実用域である700点台以上のスコアを獲得することを目標とする。

<授業の方法>

各パートの模擬問題を行いつつ、必要な解法手法を提示し、手法通りに問題を解く練習を行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業課題：65点（5点×13回）中間考査 TOEICハーフ模試：15点 期末考査 TOEIC IP（本試験）：20点

<教科書>

早川幸治 TOEIC L&Rテスト書き込みドリル 桐原書店

<参考書>

なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	Part 1 人物の動作と状態、物の状態と位置	Part 1で出題される発話文の文法を確認するほか、穴埋めリスニングを行い確実に文の内容を聞き取る練習を行う。
2	Part 2 疑問詞を使った疑問文、基本構文と応答の決まり文句、Yes/No疑問文	Part 2で出題される会話文の提携パターンを学ぶ。
3	Part 1, Part 2演習、Part 5 品詞	過去2回分の確認を図るリスニングテストの実施。また、問題を実際に作成し全体で解き合う。Part 5では頻出する品詞問題の解説を行う。
4	Part 5 動詞、代名詞、関係代名詞	Part 5で必ず出題される文法項目の確認及び練習問題を解く。
5	Part 5 接続詞・前置詞、Part 5復習	Part 5の難関問題である接続詞・前置詞の問題の解説を行う。そのうえで、文法問題の総復習を行う。
6	TOEICハーフ模試及び解説	これまで学んだことの確認をするために、実際の問題の半分の量のTOEICを模試として解く。
7	Part 3 日常場面での会話、電話での会話、オフィスでの会話①、オフィスでの会話②	Part 3で出題される頻度の高い会話文を聞き取る方法を学ぶ。
8	Part 4 アナウンス・ツアー、ラジオ放送・宣伝	Part 4で出題される頻度の高いスピーチ文を聞き取る方法を学ぶ。
9	Part 4 留守番電話、トークスピーチ・会議の一部	図表を伴うスピーチ文の聞き取り方法を学ぶほか、先読みができない場合の対処法を習得する。
10	Part 3, 4の復習	Part 3, 4の模擬問題を解答し、これまでの解答手法を習得できているか確認する。
11	Part 7 Skim Reading	Part 7の攻略に必要な速読で求められるSkim Readingを実践する。
12	Part 7 表・用紙、広告、チャット、手紙・Eメール	前回学んだskim readingを使ってpart 7の様々な問題を解く。
13	Part 7 ダブルパッセージ、トリプルパッセージ	時間のかかる複数パッセージ問題への取り組み方、skim readingの仕方を説明し問題を解く。
14	Part 6 時制・代名詞・語彙問題、つなぎ言葉・文の挿入	Part 6の全パターンの解説を行ったうえで、各パターンの解答手法を学ぶ。
15	Part 6, 7の復習	Part 6, 7の模擬問題を解答し、これまでの解答手法を習得できているか確認する。

科目コード	T110206		区 分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	TOEIC II		担当者名	古賀 敢人			○		
			実務経験との関連	民間教育会社（教材開発会社・教育コンサルタント等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

TOEICの各PARTを、時間を計りつつ実践形式で解く練習をする。本番を想定した解答手法を学び得点アップにつなげる。

<授業の到達目標>

現時点で保有するTOEICスコアを100～200点上げることが目標とする。

<授業の方法>

実践形式で解き、間違えたものについてその理由を自ら理解する力を身につける。独学でTOEICのほか、英語学習をするために必要な自己理解力の客観的把握を図る。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業課題：65点（5点×13回） 中間考査 TOEICハーフ模試：15点 期末考査 TOEIC IP（本試験）：20点

<教科書>

TOEIC TEST講座TOEIC TESTスコア激伸び模試 3回分 新形式問題対応編TAC出版

<参考書>

なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	Part 1, 2	TOEICで特に落とせない問題をピックアップし、すべて正答するために必要な知識・技能を学ぶ。
2	Part 5	文法事項を総ざらいし、語彙問題にも対応できるように接尾辞や接頭辞から意味を汲み取る練習を行う。
3	Part 5, 6	文法問題を素早く間違いなく解くために必要な文の見どころを再整理する。
4	Part 3	会話文の聞き方と、話者の意図を示す部分の聞き取り練習を行う。
5	Part 4	スピーチ原稿で出現するパターンや、難解なテーマに関する発話の聞き取り方を学ぶ。
6	TOEICハーフ模試	これまで学んだことの確認をするために、実際の問題の半分の量のTOEICを模試として解く。
7	Part 2, 3	得点源になるセクションで難解な問題を中心に正答する方法を学ぶ。
8	Part 3, 4	話者の意図を的確に把握するために必要な形容詞について学ぶ。
9	Part 5, 7	正答を導くために必要な語句や文章の把握を瞬時に行う練習をする。
10	Part 6, 7	文法規則から、読解を読み解く方法を学ぶ。
11	Part 1-4	リスニングセクションを解き、ミスをした理由を突き止めるとともに、同じミスをしないために必要な方策を伝授する。
12	Part 5-6	リーディングセクションを解き、ミスをした理由を突き止めるとともに、同じミスをしないために必要な方策を伝授する。
13	Part 7	精読が必要になる読解問題の攻略法を学ぶ。
14	Part 3, 4, 7	これまでの総復習を行う。
15	Part 1, 2, 5	これまでの総復習を行う。

科目コード	T110209		区分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	体育実技 I		担当者名	小川 千尋			○		
			実務経験との関連	民間保育療育会社（個別運動療育施設）において、運動量育士としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1単位	授業方法	実験・実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

自分自身の健康の維持推進を図り、スポーツの体験と基礎的技術の修得を行う。競技性の高いチームスポーツや個人スポーツに加え、年齢や体力、技術にかかわらず誰もが楽しめるスポーツも取り入れる。周りの人々とコミュニケーションをとりながら、生涯を通じてスポーツに親しむことができる知識や技術を身に付ける。そこで本科目では、屋内スポーツであるバレーボール、バスケットボール、バドミントン及びインディアカ、ボッチャ等を行う。

<授業の到達目標>

本授業は、主に室内で実施されるスポーツの基礎的技術の習得とゲームを実践することで、それらを余暇の積極的消費の手段として身につけることを目的とし、次の4点を到達目標とする。①各スポーツ種目の基礎的技術を身につけ、能力に応じ実践できる②スポーツの実践を通して体力の自己管理・向上をはかることができる③ゲームの流れとルールを理解し、審判ができる。

<授業の方法>

1. 点呼・ウォーミングアップ（10分） 2. 本時の学習の確認（10分） 3. 基礎技術の練習①（10分～30分） 4. グループ活動（10分～20分） 5. ミニゲーム、試合（20分～30分） 6. 振り返り・片付け（10分） ※Google formを活用してリフレクションペーパーの提出を実施

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への意欲・態度30%，グループ（チーム）内における態度・協調性30%，事前課題・事後課題 20%，技術の上達度20%によって評価する。〔受講上の注意〕グループ学習となる為、授業は全出席を原則とする。ただし、病気などやむを得ない理由で欠席する場合でも、1/4 を超えてはならない。なお、3分の1以内の欠席については補講を実施する場合もある。また、遅刻は原則として認めない。実技の際は必ずトレーニングシャツ、トレーニングパンツ、運動靴（体育館用）を着用する。これ以外の服装での受講は認めない。

<教科書>

特にテキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。授業時に指示

<参考書>

なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	スポーツの意義と目的	からだを動かす意義 授業の進め方
2	スポーツ①/体力テスト	体ほぐしの運動と体力を高める運動の実施
3	スポーツ①/体力テスト	体ほぐしの運動と体力を高める運動の実施
4	スポーツ②（個人種目）	ニュースポーツ（ボッチャ）の実施
5	スポーツ③（個人種目）	バドミントンの基礎技術の習得
6	スポーツ③（個人種目）	バドミントンの基礎技術の習得
7	スポーツ③（個人種目）	バドミントンの基礎技術の習得&簡易ゲーム
8	スポーツ④（集団種目）	ニュースポーツ（インディアカ）の基礎技術の習得
9	スポーツ④（集団種目）	ニュースポーツ（インディアカ）の基礎技術の習得&簡易ゲーム
10	スポーツ⑤（個人種目）	バレーボールの基礎技術の習得
11	スポーツ⑤（個人種目）	バレーボールの基礎技術の習得
12	スポーツ⑤（集団種目）	バレーボールの基礎技術の習得&簡易ゲーム
13	スポーツ⑥（集団種目）	バスケットボールの基礎技術の習得
14	スポーツ⑥（集団種目）	バスケットボールの基礎技術の習得
15	スポーツ⑥（集団種目）	バスケットボールの基礎技術の習得&簡易ゲーム

科目コード	T110210		区 分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	体育実技Ⅱ		担当者名	小川 千尋			○		
			実務経験との関連	民間保育療育会社（個別運動療育施設）において、運動量育士としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	1単位	授業方法	実験・実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

自分自身の健康の維持推進を図り、スポーツの体験と基礎的技術の修得を行う。競技性の高いチームスポーツや個人スポーツに加え、年齢や体力、技術にかかわらず誰もが楽しめるスポーツも取り入れる。周りの人々とコミュニケーションをとりながら、生涯を通じてスポーツに親しむことができる知識や技術を身に付ける。そこで本科目では、屋外スポーツであるテニス、フットサル、ゴルフ及びタグラグビー、モルック等を行う。

<授業の到達目標>

本授業は、主に屋外(テニス・フットサル・ニュースポーツ等)で実施されるスポーツの基礎的技術の習得とゲームを実践することで、それらを余暇の積極的消費の手段として身につけることを目的とし、次の4点を到達目標とする。①各スポーツ種目の基礎的技術を身につけ、能力に応じ実践できる ②スポーツの実践を通して体力の自己管理・向上をはかることができる ③ゲームの流れとルールを理解し、審判ができる④生涯スポーツとしての位置づけが理解できる⑤リーダーシップおよび協調性、ならびに創造性を身につける。

<授業の方法>

1. 点呼・ウォーミングアップ(10分) 2. 本時の学習の確認(10分) 3. 基礎技術の練習①(10分～30分) 4. グループ活動(10分～20分) 5. ミニゲーム、試合(20分～30分) 6. 振り返り・片付け(10分) ※Google formを活用してリフレクションペーパーの提出を実施

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業への意欲・態度30%、グループ(チーム)内における態度・協調性30%、事前課題・事後課題 20%、技術の上達度20%によって評価する。

〔受講上の注意〕 グループ学習となる為、授業は全出席を原則とする。ただし、病気などやむを得ない理由で欠席する場合でも、1/4 を超えてはならない。なお、3分の1以内の欠席については補講を実施する場合もある。また、遅刻は原則として認めない。実技の際は必ずトレーニングシャツ、トレーニングパンツ、運動靴(体育館用)を着用する。これ以外の服装での受講は認めない。

<教科書>

特にテキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。授業時に指示

<参考書>

なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	スポーツの意義と目的	からだを動かす意義 授業の進め方
2	スポーツ①(個人種目)	ニュースポーツ(タグラグビー)の基礎ルールの理解
3	スポーツ①(個人種目)	ニュースポーツ(タグラグビー)の簡易ゲーム
4	スポーツ②(集団種目)	ニュースポーツ(タグラグビー)の簡易ゲーム
5	スポーツ②(集団種目)	ニュースポーツ(ゴルフ)の基礎技術の習得
6	スポーツ③(集団種目)	ニュースポーツ(ゴルフ)の基礎技術の習得
7	スポーツ③(集団種目)	ニュースポーツ(ゴルフ)の基礎技術の習得&簡易ゲーム
8	スポーツ④(個人種目)	テニスの基礎技術の習得
9	スポーツ④(個人種目)	テニスの基礎技術の習得
10	スポーツ④(個人種目)	テニスの基礎技術の習得&簡易ゲーム
11	スポーツ④(個人種目)	テニスの基礎技術の習得&簡易ゲーム
12	スポーツ⑤(集団種目)	フットサルの基礎技術の習得
13	スポーツ⑤(集団種目)	フットサルの基礎技術の習得
14	スポーツ⑤(集団種目)	フットサルの基礎技術の習得&簡易ゲーム
15	スポーツ⑤(集団種目)	フットサルの基礎技術の習得&簡易ゲーム

科目コード	T220104		区分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	簿記入門Ⅰ		担当者名	末原 聡			○		
			実務経験との関連	民間会社の経理担当社員・会計事務所所員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目は、企業の取引を記録し、財務諸表を作成するための「複式簿記」（以下「簿記」）というシステムの基本を学ぶ。簿記を学修することにより、経営・経済を理解するための基礎知識を修得することができる。また、簿記検定試験に合格することは、就職活動にも有利となり、業種・職種を問わず実社会で役立つ。問題集を利用して、一つ一つの論点を確実に理解することに重点を置く。全国経理教育協会主催の簿記能力検定試験「3級商業簿記」（以下「全経3級」）を履修者全員が受験し、合格することを目標とする。

<授業の到達目標>

① 全経3級に合格するための知識を身につける② 簿記の意義を知り、複式簿記の原理を学ぶ③ 基本的な取引の仕訳ができるようになる④ 取引の仕訳から各帳簿への転記、試算表の作成、決算までの簿記一巡の流れを理解する。

<授業の方法>

①授業の開始時に、前回のフィードバックを行う ②テキストの解説の後、問題演習および問題解説を行う③仕訳や集計などの計算を行うので、各自電卓（スマートフォン不可）を持参すること ④手書きの問題演習を主体とする ⑤GoogleClassroomを用いたデジタル教材の配布等も行う

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加度・受講態度・授業の課題など60%：期末テスト40%フィードバック：次の授業において、問題の解説を行う。GoogleClassroomのデジタル教材などでフォローする。

<教科書>

（監修）新田忠誓（編著）桑原知之 2024年2月20日 全経簿記能力検定試験公式テキスト 3級商業簿記ネットスクール出版

<参考書>

なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	イントロダクション	身の回りの簿記
2	仕訳と転記	仕訳 勘定と転記 仕訳帳と総勘定元帳
3	現金と預金	現金と預金 当座預金 小口現金
4	商品売買	三分法 掛取引 返品 商品売買に係る帳簿 売上原価対立法
5	その他の収益と費用	収益の受取り 費用の支払い
6	決算の手続き①	決算とは 試算表の作成
7	その他の債権債務	貸付金と借入金 未収金と未払金 前払金と前受金
8	一時的な処理	仮払金と借受金 消費税の処理 立替金・預り金と給料の支払い 現金過不足
9	有価証券と有形固定資産	有価証券の取得・期末評価 有形固定資産の取得・減価償却
10	株式の発行	株式の発行 株式会社の資本構成
11	決算の手続き②	決算整理記入 売上原価の計算 貸倒の見積もり
12	決算の手続き③	消耗品費の処理 費用の繰延べ 費用の見越し
13	精算表①	精算表の作成方法
14	精算表②	損益計算書と貸借対照表 帳簿の締め切り
15	総演習	全経3級の過去問の演習と解説

科目コード	T220105		区分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	簿記入門Ⅱ		担当者名	末原 聡			○		
			実務経験との関連	民間会社の経理担当社員・会計事務所所員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目は、企業の取引を記録し、財務諸表を作成するための「複式簿記」（以下「簿記」）というシステムの基本を学ぶ。簿記を学修することにより、経営・経済を理解するための基礎知識を修得することができる。また、簿記検定試験に合格することは、就職活動にも有利となり、業種・職種を問わず実社会で役立つ。簿記入門Ⅰで学んだ知識をもとに、全経3級では取り扱わなかった会計処理や帳簿組織等の論点に重点を置く。日本商工会議所主催の簿記検定試験「3級商業簿記」（以下「日商3級」）を履修者全員が受験し、合格することを目標とする。

<授業の到達目標>

①日商3級に合格するための知識を身につける ②簿記の意義を知り、複式簿記の原理を学ぶ ③基本的な取引の仕訳ができるようになる ④取引の仕訳から各帳簿への転記、試算表の作成、決算までの簿記一巡の流れを理解する

<授業の方法>

①授業の開始時に、前回のフィードバックを行う ②テキストの解説の後、問題演習および問題解説を行う ③仕訳や集計などの計算を行うので、各自電卓（スマートフォン不可）を持参すること ④手書きの問題演習を主体とする ⑤GoogleClassroomを用いたデジタル教材の配布等も行う

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加度・受講態度・授業の課題など60%：期末テスト40%フィードバック：次の授業において、問題の解説を行う。GoogleClassroomのデジタル教材などでフォローする。

<教科書>

(編著)TAC株式会社 2025年2月23日第15版 よくわかる簿記シリーズ合格テキスト日商簿記3級Ver15.0TAC出版

<参考書>

なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	イントロダクション	簿記の基本原則と会計処理
2	期中取引①	商品売買 現金・預金 小口現金 クレジット売掛金
3	期中取引②	手形取引・電子記録債権債務・その他取引
4	期中取引③	さまざまな帳簿の関係 現金出納帳・当座預金出納帳・商品有高帳・売掛金元帳・買掛金元帳
5	期中取引④	さまざまな帳簿の関係 仕入帳 売上帳 受取手形記入帳 固定資産台帳 / 試算表
6	決算①	決算整理仕訳：現金過不足・売上原価・貸倒れ
7	決算②	決算整理仕訳：減価償却・貯蔵品・当座借越
8	決算③	決算整理仕訳：経過勘定項目
9	決算④	決算整理後残高試算表 精算表
10	決算⑤	帳簿の締め切り
11	決算⑥	貸借対照表と損益計算書
12	株式会社会計	株式の発行・剰余金の配当・税金
13	証票と伝票①	証ひょう請求書 領収書 当座勘定照合表 法人税の領収済通知書
14	証票と伝票②	入金伝票 出金伝票 振替伝票
15	総復習	日商3級の過去問題の演習と解説

科目コード	T230102	区分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	流通論	担当者名	高橋 有弥			○			
		実務経験との関連	ビジネス系専門学校教員・管理職としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

ビジネスにおける商品流通（「メーカー」→「卸」→「小売」→「消費者」）の重要性について学んでいきます。また、経済環境と消費者の変化、そして、情報技術が発展していく中における国内外の卸売業及び小売業の近年の動向についても学び、日本と海外の流通機構の違いなどについても学んでいきます。加えて、流通産業におけるDX化やグローバル化について、大手流通企業の事例を用いて実践的に学んでいきます。

<授業の到達目標>

- ① ビジネスにおける流通機構の役割の理解
- ② 国内外の流通産業の動向の理解及び日本と海外の流通機構の違いの理解
- ③ 流通産業における時代の変化に合わせた進化（DX化、グローバル化など）の理解

<授業の方法>

1. 配布資料を用いて、講義を行なう。 2. 授業中は質疑応答しながら授業を進めるため、対話型授業をめざす。 3. 授業終了前に小テストを実施し、基礎知識の定着度を確認しながら進めていく。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末課題 40%、中間レポート 30%、授業態度・参加度40%

<教科書>

井上崇通, 村松潤一, 庄司真人 (2023/3/29)ベーシック流通論 (第2版) 同文館出版

<参考書>

上原 征彦・坂上 眞介 (2008/3/11)手に取るようにわかる小売・流通がわかる本かんき出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	1 授業概要の説明・オリエンテーション 流通とは・・・ 社会における流通の役割について	「メーカー」→「卸」→「小売」→「消費者」についての詳細を学ぶ
2	2 小売業の役割 (1) 大手総合量販店の役割とビジネスモデル	国内外の大手総合量販店の事例から学ぶ
3	3 小売業の役割 (2) 国内のコンビニのビジネスモデル	国内コンビニチェーン企業の事例からコンビニのビジネスモデルを学ぶ
4	4 小売業の役割 (3) SPAビジネスモデルについて	国内外のSPAビジネスモデルについて企業の事例から学ぶ
5	5 小売業の役割 (4) ディスカウントストア・ドラッグストア	国内外のディスカウントストア・ドラッグストアの成功事例から学ぶ
6	6 卸売業の役割とその事例 (1) 卸売業とは・・・	国内大手卸売業企業の事例から学ぶ
7	7 卸売業の役割とその事例 (2) 卸売業の役割	卸売企業の成功事例から学ぶ
8	8 ショッピングセンター (1) アウトレットモールについて	国内外のアウトレットモールから学ぶ小売業の役割を学ぶ
9	9 ショッピングセンター (2) 海外のショッピングセンターから学ぶ	ショッピングセンターに求められる提供価値や機能について学ぶ
10	10 PBプライベートブランド (流通業者の商品開発) (1) 総合量販店におけるプライベートブランドについて	プライベートブランドとは何か?なぜ流通業者は商品開発を行うのか?を企業の辞令から学ぶ
11	11 PBプライベートブランド (流通業者の商品開発) (2) プライベートブランドからナショナルブランドへ	無印良品などの事例を用いてプライベートブランドについて学ぶ
12	12 流通と情報 (1) POS/EDI/リテールDX	流通産業における情報化について企業の事例を用いて学ぶ
13	13 流通と情報 (2) 電子取引他	流通産業における情報化について企業の事例を用いて学ぶ
14	14 日本の流通構造と日本的取引慣行 日本の流通構造とは・・・日本的取引慣行とは・・・	日本の流通構造・取引慣行を海外と比較して学ぶ
15	15 まとめ これまでの授業の振り返り	

科目コード	T230301		区分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	ホスピタリティ論		担当者名	浜崎 統			○		
			実務経験との関連	ホテル運営会社の社員・管理職としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、ホスピタリティの基本概念とその重要性を学び、実践的な接客マナーや顧客対応技術を習得します。ロールプレイやディスカッションを通じて、コミュニケーション能力や異文化理解を深め、日常生活や職場でのホスピタリティを実践的に理解できるよう支援します。

<授業の到達目標>

1. ホスピタリティの基本概念を理解し、実生活で活用できるようになる。 2. 適切な接客マナーとコミュニケーションスキルを習得する。 3. 異文化理解を深め、多様な顧客に対する対応方法を身につける。

<授業の方法>

1. 出席確認と前回の振り返り (15分) 2. 講義 (30分) 3. ロールプレイ/グループワーク/ディスカッション (35分) 4. 意見交換/まとめ (10分) ※授業関連の活動 (事前課題の提出、小テストの受験、事後課題等) については、Google Classroomを活用します。

<成績評価方法>※課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

期末課題 40%、課題/小テスト 30%、授業態度 30%

<教科書>

島田 裕巳 (2020年5月7日) イスラム、ヒンズー、ユダヤ教.....-宗教別 おもてなしマニュアル中央公論新社

<参考書>

なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ホスピタリティとは?	ホスピタリティの基本概念、グループディスカッション「良いサービスとは?」
2	ホスピタリティの歴史と発展	歴史的背景、世界と日本の違い、事例研究と意見交換
3	接客・接遇の基本	第一印象の重要性、表情・声・姿勢、ロールプレイ「良い接客・悪い接客」
4	コミュニケーションスキル	言葉遣い、傾聴、共感、ロールプレイ「お客様対応」
5	異文化理解とホスピタリティ	異文化対応の基本、外国人視点のサービス、ケースワーク「文化の違いによる誤解」
6	チームワークとホスピタリティ	組織内での協力、グループワーク「連携が必要な接客シナリオ」
7	クレーム対応の基礎	クレーム対応の原則、ロールプレイ「クレーム対応の実践」
8	これまでの学びの整理 (中間振り返り)	これまでの内容の復習、グループワーク「学びの共有」、小テスト
9	心のこもったおもてなし	心のこもったサービスとは? 事例紹介とディスカッション
10	サービスの現場での判断力	状況判断力を鍛えるケーススタディ、グループワーク「とっさの対応」
11	顧客満足とリピーターの重要性	顧客満足とは? アンケート分析、グループディスカッション
12	サービスの演出と空間づくり	環境・雰囲気的重要性、グループワーク「理想の空間づくり」
13	現場で活かすホスピタリティ	実際の職場での応用例、ロールプレイ「ケース別対応」
14	まとめと発表準備	これまでの学びを整理し、各グループで発表準備
15	最終発表・まとめ	グループ発表、フィードバック、総括

科目コード	T230302		区分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	ホスピタリティ・マネジメント論		担当者名	浜崎 統			○		
			実務経験との関連	ホテル運営会社の社員・管理職としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、ホスピタリティマネジメントの基礎を学び、サービス業を中心に様々な業界での実践事例を考察します。アクティブラーニングを取り入れ、ディスカッションやロールプレイを通じて実践力を養います。異文化理解や最新技術の活用も視野に入れ、持続可能なホスピタリティのあり方を探究します。最終発表を通じて学びを深め、即戦力となるスキルを身につけることを目指します。

<授業の到達目標>

1. ホスピタリティマネジメントの基礎理解と応用力の習得：様々な業界でのホスピタリティの実践例を理解し、適切なサービス提供の方法を説明できる。 2. 顧客対応スキルと問題解決能力の向上：クレーム対応や顧客満足度向上の手法を実践的に学び、状況に応じた対応を適切に行える。 3. 多様性理解と持続可能なホスピタリティの探究：異文化理解や最新技術の活用を通じ、持続可能なホスピタリティの在り方を提案できる。

<授業の方法>

1. 出席確認と前回の振り返り (15分) 2. 講義 (30分) 3. ロールプレイ/グループワーク/ディスカッション (35分) 4. 意見交換/まとめ (10分) ※授業関連の活動（事前課題の提出、小テストの受験、事後課題等）については、Google Classroomを活用します。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末課題 40%、課題/小テスト 30%、授業態度 30%

<教科書>

服部 勝人（2008年4月26日）ホスピタリティ・マネジメント入門 第2版丸善

<参考書>

なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の目的、進め方、評価方法の説明。ホスピタリティマネジメントとは何か
2	ホスピタリティマネジメントの基本	ホスピタリティとマネジメントの関係、成功事例
3	サービス業におけるホスピタリティ	飲食業、ホテル業のホスピタリティ戦略
4	交通・観光業のホスピタリティ	航空、鉄道、観光業のサービス事例
5	医療・福祉業界のホスピタリティ	医療機関、介護施設でのホスピタリティ
6	小売・販売業のホスピタリティ	接客販売のポイント、顧客満足度向上策
7	クレーム対応とリカバリー	クレームの種類と適切な対応策
8	中間試験	これまでの学習内容をテスト形式で確認
9	IT・テクノロジーとホスピタリティ	AI・DXがホスピタリティ業界に与える影響
10	ホスピタリティとチームマネジメント	組織内でのホスピタリティの役割
11	ホスピタリティマーケティング	ブランド戦略、集客手法
12	SDGsとホスピタリティ	持続可能なホスピタリティのあり方
13	コンシェルジュの実務	実務での対応スキル、顧客満足度向上策
14	まとめと発表準備	学びの振り返りと最終発表準備
15	最終発表	学生のプレゼンテーションとフィードバック